駅前健康相談センターだより

甲状腺の病気

甲状腺と甲状腺ホルモンとは？

甲状腺は、“のどぼとけ”の下辺りにある、ちょうが羽を広げたような形をした小さな臓器です。食べ物に含まれるヨウ素を原料に甲状腺ホルモンを作り、血液中に分泌しています。

甲状腺ホルモンは、全身の臓器や細胞の代謝を促す、いわば “ 元気の源 ”です。そのため甲状腺に異常が起こると、ホルモン分泌の調節がうまく行われなくなり、さまざまな症状が現れます。

甲状腺ホルモンの分泌異常が起こると・・・

甲状腺ホルモンの分泌が

多くなる　**バセドウ病**

⇩

主な症状

〇首の腫れ
〇眼の異常（眼球の突出）

《甲状腺ホルモンの過剰分泌による症状》

〇息切れ
〇動悸
〇手指・足の震え
〇汗をかく
〇痩せる
〇暑がり‥‥急に暑がりになった。
冬でも暑くて薄着になる。
夏に近づく頃から夏バテする。など

甲状腺ホルモンの分泌が

少なくなる　**橋本病**

⇩

主な症状

〇首の腫れ

《甲状腺ホルモンの不足による症状》

〇無気力
〇物忘れ
〇筋力低下
〇疲れやすい
〇肌がカサカサになる
〇寒がり‥‥急に寒がりになった。
夏でも暖房をつける。
一人だけ寒がる。など

早期発見のための検査

◆　セルフチェック

「しこりが触れる」「見た目にも腫れているのがわかる」「食事をちゃんととっているのに痩せてきた」「急に暑がり・寒がりになってきた」などの変化がある場合は、注意が必要です。躊躇（ちゅうちょ）せずに甲状腺の専門医を受診しましょう。

◆　甲状腺の病気の検査

◎血液検査・・・・血液中の甲状腺ホルモンと甲状腺刺激ホルモン（ＴＳＨ）濃度、自己抗体の有無や数値を調べます。基本的にどこの医療機関でも受けられる検査ですが、健康診断などの一般的な項目には含まれないので受診が必要です。

◎超音波検査・・・甲状腺の形、大きさ、内部の状態を調べます。超音波検査の最大の目的は、甲状腺がんとの合併を調べることです。

バセドウ病・橋本病の治療

◆　バセドウ病の治療

◎薬物療法

主に使われるのは「抗甲状腺薬」のチアマゾール、プロピルチオウラシルの２種類があります。抗甲状腺薬が効きにくい、あるいは副作用が生じた場合は、甲状腺ホルモンが分泌されるのを一時的に妨げる作用のある「無機ヨウ素」を使います。

◎アイソトープ治療

放射性ヨウ素の入ったカプセルを飲み、その放射線で甲状腺の細胞を壊して甲状腺を小さくすることで、甲状腺ホルモンの過剰な分泌を押さえます。

◎手術

甲状腺がかなり肥大していたり、腫瘍が合併している時は、甲状腺を取り除く手術を行います。

◆　橋本病の治療

◎経過観察・・・診断されても甲状腺機能に異常が無ければ定期受診のみで治療は不要です。

◎薬物療法・・・甲状腺機能が低下している場合は、甲状腺ホルモン剤で補います。

＊バセドウ病、橋本病も長期的な診療が必要となるので、定期受診し変化がなくても、経過観察を続けることが大切になります。

郡山駅前健康相談センターの御案内

開所日時　：　毎週火～日曜日　午前１０時～午後７時
担　　当　：　保健師・看護師・栄養士
場　　所　：　ビッグアイ７階　市民交流プラザ内
電　　話　：　０２４－９８３－７７１５

〇からだ、こころの健康・食生活・子育て等の相談
〇食生活の相談（塩分濃度測定）
〇骨コツ相談（骨密度測定）月３回（土曜２回・木曜日１回）午後１時３０分～４時（要予約）
〇母子健康手帳・予防接種券の交付

発行：駅前健康相談センター　令和　４年　８月